

## 医師の異動（11月）

- 着任（令和7年11月1日付） ありません
- 退職（令和7年10月31日付） ありません

## リレー・フォー・ライフ・ジャパン滋賀医科大学に参加しました！

2025年10月11日・12日、滋賀医科大学キャンパスで「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025滋賀医科大学」が開催されました。



リレー・フォー・ライフは、がんに向き合う患者さん、ご家族、医療従事者、地域住民が一堂に会し、命の尊さを分かち合い、支え合うことを目的としたチャリティイベントです。

当日は曇っていましたが、時折晴れ間も見えるなか、キャンパス内の特設コースを歩きながら、がん圧と患者支援への思いを共有しました。また、院内各部署において、募金及び約30枚のルミナリエバックの作成にも協力しました。

今回の参加を通じ、がん患者さんとご家族の思いや願いに直接触れることができ、私たちが日々の診療や研究を続ける意味を改めて実感しました。

この経験を今後の医療活動に活かし、地域社会とともに「がんに向き合い、がんと共に生きる」取り組みをさらに広げていきたいと思っております。

（がん対策推進室）



## 医療従事者研修会の開催について

### ■ 第355回 開放型病床生涯教育研修会

日 時：令和7年12月18日（木）19:00～20:00

テ マ：『湖北ハートセミナー～虚血性心疾患の診断・再発予防を考える～』

第1部：演者 高島弘行先生 座長 児玉浩志先生 こだまクリニック院長

第2部：演者1 児玉健二先生 座長 納谷佳男先生 長浜市立湖北病院院長  
演者2 小林勇介先生

会 場：市立長浜病院 本館2階 講堂

申 込：FAX・メール・QRコードでお申し込みください。

※ 講演内容や申し込み方法等の詳細は、別紙チラシをご参照ください。



### ■■ 編集後記 ■■

ようやく秋らしく過ごしやすい季節になりました。新川沿いの桜も紅葉し始めています。山の景色も緑、黄、橙、赤、茶と彩りがきれいになっていきますね。秋の味覚をおともに、きれいな景色を眺めながら、ほっと一息つきたいですね。



いつも あなたの すぐそばに

市立長浜病院

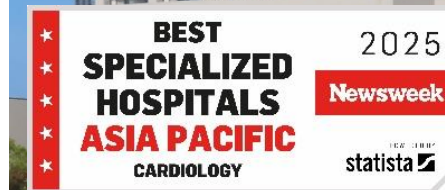
令和7年11月1日号

No.248

## 地域医療連携だより

理念  
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院  
患者総合支援センター 地域医療連携室



救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院 地域がん診療連携拠点病院  
がんゲノム医療連携病院 厚生労働省臨床研修指定病院 地域医療支援病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。11月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けしますので、ご査収ください。 敬白

## 脳神経外科のご紹介

脳神経外科 責任部長 堀口 聡士

### 急性期から慢性期まで切れ目なく 患者さまの回復を多職種チームで支える医療をめざして

当院脳神経外科は京都大学脳神経外科の関連施設として、最新の知見と技術を取り入れながら、地域の脳神経外科医療を担っています。脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、水頭症など幅広い疾患に対して24時間体制で対応し、2024年には年間149件の手術を実施しました。主な内訳は、慢性硬膜下血腫穿頭術38件、急性再開通療法14件、脳動脈瘤塞栓術17件（破裂5件・未破裂12件）、頸動脈ステント術11件であり、脳血管内治療関連手技が全体の過半を占めています。地方自治体立病院としては脳血管内治療の件数が多く、救急搬送や近隣医療機関からの紹介症例にも迅速に対応できる体制を整えています。

脳卒中診療体制としては脳卒中ケアユニット（SCU）6床を運営し、急性期からの集中的な治療・看護・リハビリテーションを専門スタッフが一体となって実施しています。発症直後からのリハビリテーションを重視し、早期離床・早期社会復帰を目指した包括的な脳卒中医療を展開しています。

また、脳血管撮影では遠位橈骨動脈穿刺（distal radial approach）を第一選択としており、従来の大腿動脈穿刺に比べて止血・安静時間の短縮や穿刺部合併症の減少など、患者負担の軽減を実現しています。当院ではこの手技を応用した腫瘍塞栓術の症例を蓄積し、学術論文として報告するなど、安全性と低侵襲性を両立する診療を推進しています。

脳腫瘍手術では、顕微鏡手術に加え経鼻内視鏡手術による経蝶形骨洞手術や軟性鏡を用いた手術にも対応し、根治性と低侵襲性の両立を目指しています。また、微小血管減圧術などにも幅広く対応しています。

さらに、長浜赤十字病院との交流を通じて相互に症例検討を行い、地域全体で質の高い脳神経外科医療を提供できるよう協力体制を構築しています。今後も地域医療機関との連携を一層強化し、急性期から慢性期まで切れ目のない診療を実現することで、地域住民の安心と医療水準の向上に貢献してまいります。



## 新任医師のご紹介

リウマチ膠原病・血液内科医員 **マクラケン 佳世**

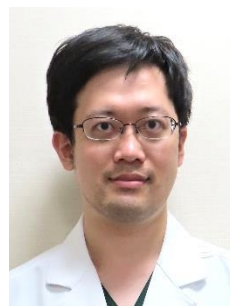


令和7年10月からリウマチ膠原病・血液内科医員として勤務しています。

初期研修から支えてくださった諸先生方、コメディカルの皆様、患者様に深く感謝しております。

風通しがよく、連携しあえる市立長浜病院でさらに成長したいと思います。何卒よろしくお願いたします。

脳神経外科嘱託医 **長谷川 貴士**



令和7年10月から脳神経外科医として赴任しました。平成30年に島根大学を卒業後、兵庫県立尼崎総合医療センターの初期研修を経て京都大学に入局し、この度市立長浜病院へ配属となりました。過去に複数回長浜に観光に来たこともあり、ご縁を感じます。半年間と短いですが、何卒よろしくお願いたします。

縁を感じます。半年間と短いですが、何卒よろしくお願いたします。

## もっと市民に愛される病院へ 脳卒中の回復を支える病棟とスタッフの紹介

### 脳卒中ケアユニット（SCU）

係長 **田中 梨絵**



SCUは脳梗塞・脳出血・くも膜下出血といった脳卒中の急性期病棟です。看護体制は3対1看護を行っています。その特性を活かし、運動障害や言語障害、嚥下障害等に対して個別性のある看護計画を立案し、毎日セラピストと情報交換を行いながら介入しています。

より良い看護が提供できるように、日々スタッフ同士で声を掛け合い、脳卒中を発症された患者様・ご家族が望まれる生活に少しでも近づけるよう、日々介入しています。

また、後方病棟である3西病棟と協働し、学習会やローテーションを取り入れることで、さらなるスキルアップを目指しています。さらに年に数件ある院内発症の脳卒中症例に対しても迅速な対応が出来るよう、救急との脳卒中院内発症時の新たな取り組みも開始しています。

### 回復期リハビリテーション病棟

係長 **坪井 和子**



回復期リハビリテーション病棟は開設から12年目となります。今年7月には入院料1加算を取得し、病棟運営を行っています。当病棟は、院内をはじめ湖北地域や近隣市、県外からの申し込みにも対応しています。入院患者様の多くは、脳血管疾患や骨折術後などの整形外科疾患、長期療養による筋力低下等で、日常生活動作の回復を願っておられます。

当病棟では、患者様一人ひとりに合わせた疾患の再発予防のための生活指導やリハビリ、退院支援を行っています。開設以降、在宅復帰率は90%以上となっています。在宅復帰を目指し、患者様ご家族、病棟スタッフ、セラピスト、地域連携室などの関連部署と一丸となって日々活動しています。

今後も地域医療機関、施設の皆様の協力を得ながら取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

### リハビリテーション技術科

技師次長 **田中 優子**



回復期リハビリテーション病棟では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が365日体制で集中的なリハビリを実施しています。令和7年7月には回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得し、より質の高いリハビリを提供できるように取り組んでいます。その中で経皮的電気刺激やt-DCSなどの電気刺激療法を導入し、機能改善を目指しています。必要に応じて自動車運転シミュレーターを用いた評価や訓練も実施しています。また屋外歩行練習用のリハビリ庭園があり、退院後を見据えて積極的な歩行練習も行っています。さらに外出訓練、家屋評価、カンファレンスを通じて住宅改修のアドバイス、福祉用具の提案、生活動作指導などを行い、安心して退院していただけるように家族や関係機関と連携して早期の在宅復帰・社会復帰を支援しています。

## 院内デイケアに取り組む

## 認知症看護認定看護師の活動紹介

やまもと りえ  
**山本 理恵**



市立長浜病院で認知症看護認定看護師として活動しております山本理恵です。認知症看護認定看護師は、認知症を有する方が入院中も安心して過ごせるよう支援し、本人の尊厳を守りながら「その人らしい療養生活」の実現を目指して活動しています。認知症の行動・心理症状（BPSD）の背景には、不安や環境変化による混乱、身体的不調などさまざまな要因が関与します。そのため、病棟スタッフと協働し、原因のアセスメントやケア・環境調整を行いながら、落ち着いた入院生活につなげる支援を行っています。

特に当院では、「認知症ケアチーム」による多職種連携を中心に活動を展開しています。チームは医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士、リハビリテーション療法士、薬剤師、病棟看護師で構成され、週1回の病棟巡回を行っています。患者情報を共有し、行動・心理症状の背景や環境要因を検討しながら、ケアの方向性や薬剤調整などを多角的に検討しています。病棟スタッフからの相談を受けて早期介入を行うことで、症状の軽減やスタッフの負担軽減にもつながっています。

また、慢性的な認知症患者さんに対して生活リズムを整え、日常機能の低下を予防することを目的に、「院内デイケア」も実施しています。対象は認知症の有無にかかわらず、認知機能の維持・向上を目的とした支援が必要な方や、入院生活の中で活動性や交流機会が少なく、日中傾眠傾向がみられる方などです。毎週水曜日に別館デイルームで1時間開催し、看護師・介護福祉士・リハビリテーション療法士・事務職員など、多職種で協働して運営しています。



体操やレクリエーションに加え、地域ボランティア団体の協力による音楽会やマジックショーなど、多彩な催しを行っています。

今後も、院内外の多職種と連携しながら、患者さん一人ひとりの生活背景を尊重し、入院から地域生活を見据えた支援を継続してまいります。

## 摂食嚥下障害看護認定看護師の活動紹介

やましな ゆういち  
**山科 雄一**



摂食嚥下障害看護認定看護師は、「食べること」「飲み込むこと」に課題を抱える患者さんに対し、安全で快適な食生活を支援する役割があります。嚥下機能の維持・回復を図ることで、誤嚥性肺炎や低栄養の予防、生活の質の向上を目指します。

このたび、同資格を取得し、当院において活動を開始いたしました。摂食嚥下障害は、加齢や疾患、治療の影響などにより誰にでも起こりうる問題です。安全に、その人らしい食生活を支えるためには、早期の気づきと多職種による支援が不可欠です。

現在は、医師・歯科医師・言語聴覚士・管理栄養士・リハビリスタッフなどと協働し、嚥下機能の評価や食事形態の調整、口腔ケア、嚥下訓練の支援などを行っています。また、看護師が日々の観察を通して嚥下障害の兆候に気づき、早期に対応へつなげられるよう、教育体制や相談環境の整備にも取り組んでいます。現場での経験を重ねながら、どのようにすれば“気づき”が日常のケアの中で自然に生まれるかを模索しており、チーム内での情報共有や勉強会などを通して知識と実践の両面から支援を進めています。

今後は、嚥下チームの活動をさらに発展させ、院内での支援体制を強化するとともに、退院後の食支援が継続できるよう地域との連携を広げていきたいと考えております。嚥下機能や食事内容に関する情報を地域の医療機関や施設と共有し、切れ目のない支援体制の構築を目指してまいります。

「食べること」は生命を支える営みであり、生きる喜びそのものです。摂食嚥下障害看護認定看護師として、院内外の皆さまと連携しながら、患者さん一人ひとりの“食べる力”を守るための看護を推進してまいります。